



# 生命尊重推進の会 天使のほほえみ

会報 第15号  
イラスト © あべまりあ

発行所  
NPO 法人 天使のほほえみ  
発行人 鎌田久子  
編集人 福島 紀

## 「世直し国おこし」泊研修会「特集号」 魂を揺さぶつた二日間

主テーマ ○「真理研鑽・天皇后日本の国家観確立」  
サブテーマ○「母体保護法の改正に向けて」

9月4日～5日に国立中央青少年交流の家(御殿場)で、第一回天使のほほえみ一泊研修会を開催しました。

テーマは「真理研鑽・天皇后日本の国家観確立」、サブテーマは「母体保護法の改正に向けて」でした。参加者は全国広範囲からで、遠い所では宮崎、佐賀、香川、鳥取(米子から自動車で四名)参加 からのご参加でした。遠い所から本当に有難うございました。

4日は13:00開始です。国歌斉唱、関玄彦全員の自己紹介と続き、第二研修「日本の現状、真理研鑽」を鎌田理事長、第三研修「人間の尊厳性」を山口文弘先生がそれぞれ力強く魂を打つ講話をされました。各研修・行事の最初に、富士の山等の「歌」をみんなで歌いました。  
夕方に施設側の夕べの集いがあり、他の300人位の利用者と一緒に、国旗降納・体操・ミニゲームなどとして体をほぐしました。  
夕食後、第二研修「母体保護法

の問題点」をハッピー子育てのすすめ(基幹テキスト)を使って野田滋美副理事長が発表、「性道德の正常化」の心に沁みる講話を鎌田理事長がされました。

就寝前の1時間半を使って、参加者全員への「お誕生日おめでとう」の歌が始まる「茶話会」をしました。お菓子やお茶は用意していましたが、思いがけず山口先生と黒木フユ子さんが梨やぶどうを沢山差し入れて下さり(有難うございました)それらを戴きながら、全員から近況や、この運動への思い、体験談等をにぎやかに発表して頂きました。参加された方々の思いを全員で共有できました。

翌5日は施設側の朝の集いが6:30よりありました。この日は晴天に恵まれ、集いの広場の正面には真っ青な空に雲峰富士が大きく聳え立ち、皆感激しながら国旗掲揚 体操等を行いました。  
朝食後、第四研修「流産児供養」を山口文弘先生、「真理国家日本」を鎌田理事長より、それぞれ私達

の行動指針としなければならぬという強力な講話を頂きました。ただ、この時間に施設側の宿泊部屋の片付け確認チェックがあり、大部分の人が部屋に戻らねばならず本来予定していた講話の時間を大幅に短縮せざるを得なくなり、講話の先生方には大変申し訳ありませんでした。

第五研修「分科会」の前に、思いもかけず「特別に封印を解く」と言われ米子の今岡祐一先生が雅春先生の「神様の運動に不可能はない！」の「檄」の話しを発表して下さいました。

第五研修「分科会」は「母体保護法改正運動」「性道德正常化」「少子化問題」の3グループに分かれ深く討議をし、それぞれのグループの発表がありました。

いよいよ研修会も最後になり、全員の方達と団結の握手、平岡辰夫先生の「発声で「聖寿万歳」をして、名残を惜しみながらの解散となりました。参加者のアンケートには「大変良かった、来年も実施してほしい」との声が多くあり、大変充実した会になったのだと思います。私達の運動はここから始まってまいります。  
反省点として、予約時には分か

らなかった、会議研修棟と宿泊棟との距離が何百メートルも離れており、移動等に時間が掛ったのと、ご高齢の方々にはご負担が大きかったのではないかと申し訳なく思っております。今後の開催ではこの点は改善していきたいと思えます。  
(文責・野田滋美)

### お友達をお誘い下さい

年会費 個人 正会員 二千元以上  
賛助会員 五千元以上  
篤志会員 一万元以上  
法人 一口 五千元以上

郵便振替口座  
00100-6-316987  
天使のほほえみ

(住所変更の際は是非ご連絡下さい)



第一研修・「日本の現状・真理研鑽」

沖縄には感謝と慰霊の気持ちで

理事長 鎌田 久子

地球の夜明けは、富士山頂に太陽光線が当たったとき、新しい日付を迎える。日本はこの宇宙の運行と同じく、日嗣の天子を戴き、一阡六百七十年栄えてきた真理国家である。しかし現憲法を廃棄しない限り、日本の天与の輝きは發揮できない。

占領軍が日本を世界の四等国（最低）にしようと、ワイマール憲法・フリーピン憲法を参考に一週間で作った日本国憲法を押し付けたが、大日本帝国憲法は貴族・衆・参議院で廃棄していかないのだから今も生きています。ただ衆参両議院で復元を宣言し、今の時代に合わせ修正すれば良い。

現憲法を押し付けられた当日「午前0時を過ぎたらこの憲法は通らなくなる」と貴族院の議員達はしつと待っていたが、GHQにより国会内の時計は全て11時55分まで止められ法案を通過してしまつた。日本弱体化のオレンジ計画10項目の6項目が日本獣化運動「母体保護法」

であり、憲法とこれにより日本人は道徳性・羞恥心および崇高なる国家の成立・生命の尊さを喪失せしめられた。

本来忠孝が一体であり、世界で独立国が50数カ国だったのを193カ国にした日本は、自分が礎になつて他国を生かしたのだ。祖国を本来の素晴らしい国に戻すため、我々が国興しの使命を果たさねばならない。

第二研修・「人間の尊厳性」  
尊厳性の根本は生命の実相哲学

山口 文弘 先生

一般の人に「人間の尊厳性」の講義をするには、生長の家の谷口雅春先生の『生命の実相哲学』が不可欠だ。私は堂々とその事を言う。教育基本法にも「宗教心の涵養をせねばならない」と書かれている。宗派教育や宗教の押し付けはいけませんが、真理を学ぶ事は

終戦の御前会議で、三対三で戦争続行派と終結派が分かれた時、陛下が終戦の断を下された。涙が書類にしたたる音かし、椅子から滑り落ちて号泣する大臣もいた。

陛下はマッカーサーに会われ「この度の戦争は私に一切の責任がある。国民には罪がない。」と皇室の私有財産の目録を差し出され、「国民に食糧・衣服を与えて下さい。」と宮中三殿でなされる三拜九拜の礼をされた。マッカーサーは感動し、本国へ要請書を出す事を確約し、天皇陛下の真心に応えた。  
大東亜戦争で米軍は沖縄を

人間が生きて行く内に最も大切な事である。「人間の尊厳性」人間は尊い存在であり、汲めば汲むほど素晴らしい人間性・能力が輝き出す一これを僧侶の会合でも教職員の間でも話す。高校生などは、「何だ、宗教の話か」という顔をする

54万の兵・1500隻の軍艦で取り囲み、3〜4日で撲滅しようとした。対する日本勢は兵11万、一般市民・大高中小生10万、併せて21万の人間が総出で戦い、大変な苦難の末3ヶ月も持ちこたえ、本土が戦場になるのを防いでくれた。

我々は沖縄に観光で行くのではなく、感謝と慰霊の目的で行きたい。今上陛下は、先帝陛下の御心を体して幾たびも行かれ、琉歌もたくさん作られ住民を慰められた。  
独立国として、今後沖縄は、日本の自衛隊で護りせねばならない。  
★ ★

ので、「私も君たちの年頃では神仏を否定していた。話を聞かず、帰るのは自由だ。ただ成績を上げたかったら聞くがいい。最後まで聞いたら必ず上がるよ」と言う。他の宗教に行っても、「人間の尊厳性」の事をお釈迦さまは素晴らしい事を説いていらつしやる。仏法を勉強して信徒に分かるように説法して下さい。」と言うと、また来てくれと言われる。

私の家は結核で13年の間に8人の父母兄妹が亡くなつた。

た。9人目に私が倒れた。5年間寝て35kg（今の半分）になった。川内の叔母さんが看病して下さった。苦しんでいるところへ遠方の所から生長の家の女の先生が訪ねて来てくれた。2度まで「返ってくれ」と拒否した。突然叔母が「それでも人間か」と言うので、黙って聞いていた。人間の尊厳性の子の教えは難しく「私は病気になるうと思つていないのになぜなるのですか」と反発しながらも、だんだん楽しみになり、優しい先生に感化され自分も柔和になり、病気は何時の間にか消えた。  
「諸君よ決して自分の力不足を思うな、人のせいにするな。君の中に神の大遺伝があるのだ。」

（三ページ上段に続く）



(二ページ後段より続き)

「弱さは自分の心の作った幻である。」 「自己の中の宝を掘り出せ。(老人も次の世があるから) 今からでも遅くない。」 私は葬式での弔辞で「人間は死んでも死なない。蟬のように脱皮するだけだ」と言う。「あんな弔辞は初めて聞いた」と言われる。

「知能を磨くものが学問であり、人間性を磨くのが宗教である。」坊さんも教えを説かなくなったので世の中が暗くなった。「物事でも自分でも、暗い方を見ずに明るい方を見よ。」 明るい心が天国浄

第三研修・「性道德の正常化」

母体保護法改正の早期実現を

理事長 鎌田 久子

日本は戦後米軍の弱体化政策の優生保護法、それを拡大した母体保護法を受入れ続けてきました。アメリカはレーガンの時に純潔教育となり「妊娠したら産みまじょう」と学校にも保嬰室ができ、「恥かしいけど好きな人の子供だから産みたい」と女性に正常な感覚が戻

た。男性も責任をもつようになつた。日本は中絶は平気で、昔は掻き出す法で、剣持先生の写真集などむこくて見ていられない。今は吸引法、中絶は簡単になるほど魂は随落していく。これを変えるには個人がいくら叫んでもダメ、政治家が変わらなければ



士を作るのである。「良い事は堂々と伝えよう。」悪い事をするのなら恥しいと言えるが、良い事をするのに恥しいとは何事だ。真理を語る私達は神の子、神様が応援して下さい。 私は真理によって生かされ生長させられてきた。天皇陛下・日本国の素晴らしさを教えられた。神様仏様は、あなたの尊い合掌の中にいる。「父よ母よご先祖よ、夫よ妻よ子供達よ、天地一切の人よ、ありがとう。」と深く感謝合掌しつつ、生活しよう。

ばダメだ。28年前には武見医師会会長が通す事を決意したが、下の医師会議員一人が反対し、参議院で時間切れで廃案になってしまった。厚労相に言いたい「あなたも親が中絶したら生まれなかった」と。

鮫島産科医(行田市)は妊婦には必ず生んでもらうと決めていらつしやる。19歳の中絶希望の学生に3回のカウンセリングをして、里親に託することを納得させた。お産までその学生はベビー服を自分で作り、里親に渡してほしいと頼んだ。先生は男泣きに泣いたという。 カンガルーケアといって、生まれ

さんがしっかり抱いてお腹に置くと、30分位でお乳もまだ出ないのに、おっぱいまでたどりつき吸い出す。この時のふれあいがその子の人生を大変幸せなものにすると言われる。赤ちゃんは既にお腹の中で母を知り、母が幸福感の源なのだ。▼昔の日本人は純粋だった。特攻に行く青年と許婚者を上役が気をきかせて一夜を共にさせたが、「もし妊娠したらこの娘の人生は大変な事になる」と男性は身を慎み、女性は特攻に行く男性を一人て布団に寝かせ、小守歌を唄い、まんじりともせず夜を明かしたという。▼青葉地蔵尊由来記によれば、日本が負け、ソ連軍に「兵が負傷しているから三人の看護婦を送ってくれ」と言われるので送ったが、半年たっても返してこない。その内また送れという。おかしいなと思っていると、最初に送った看護婦が生命から逃げてきて「私達は売春婦をさせられていて。みな梅毒になって苦しんでいる。もう絶対送らないで」と息絶えた。それを聞いた20代の看護婦22名は、その晩三階の看護婦室で胃酸カカリで集団自決した。婦長達の帰国の際見送りに来たソ連軍



にいた看護婦達も「こんな姿で日本には帰れない。ソ連兵に梅毒を移してやる。お元気で」と別れた後、自決して果てた。何と気高き大和撫子魂ぞ！ 帰国した婦長は苦労して地蔵尊を建てると、除幕前に数人の乙女達が夢枕に現れ「お地蔵さまの手に婦長さんの数珠をかけて下さい。婦長さんに抱かれる気がする。」と言った。婦長は当日お数珠をかけ、地蔵尊にすがって泣きぐずれた。 中絶は殺人、最大の罪である。国家の生命が減っていく。我々は母体保護法改正を一日も早く実現し、道義国家日本を復活させよう。

第四研修：「流産児供養」

水子供養の大切さを伝えよう

山口 文弘 先生

中絶が多すぎるので、できるだけ大勢に呼びかけて「水子大供養」をしたいと、1帖の紙に大きく黒々と「丸山水子大供養」と書いた立て札を60本作って、3万4千人の小さな市に建てた。4トトラックに積み、市内を回り「ここに建てさせて下さい」と主旨を説明し、許可を得て立てる。「水子供養祭」が始まると、供養踊りが奉納される。奉納太鼓も出る。有名な詩吟の先生が毎年出てくれる。婦人会も協力する。うどん屋も加わり、店を出して下さる。30年間続けた。

奇跡が起る。供養中に「今二人の赤ちゃんが背中でお母ちゃんありがとう」と言っている」と泣かれる婦人がいる。武雄温泉駅前の小高い山の上の丸山公園でやるが、供養前夜、ふと山を見た人が、木々に水子の霊がたくさん豆電球の様に光っていた。それは豆電球ではなく水子の霊だ

ちの喜びの姿である。当日は午前中供養のお経を上げ、昼食後1時間の私の講話、その後演芸会となる。数百人の供養参加者がある。

私は何事をやるにも全力でやる。又、これは別の事であるが、毎月一日「天之岩戸開き武雄神社大笑神事」（笑いの大会）をやる。やはり町の角々に案内の大きな立て札を立てる。神主には太鼓たたき

第五研修：「天皇国日本」

祈りに終始される歴代天皇様

理事長 鎌田 久子

なぜ日本が永遠に続くのか。美智子皇后様がご皇室の印象を「歴代天皇様が祈りに終始していらつしやる」と仰せられた。正田家のご両親はご成婚の朝「お健やかに勤めをお果し下さい」と最敬礼をされ、その後ご招待されて

をしてもらう。正式に祝詞を唱える。「笑いの十徳一一、笑えば喜びの花が咲く・・・」と皆で大きく朗誦し、最後に「さあ笑いましよう」と言って笑わせる。これも二十年続いている。

谷口雅春先生の教えの話をして反対する人は誰もいない。創価学会にも行く、幸福の科学の大川隆法さんにも引き合わされた。昨日は立正佼成会東松山教会に出講し、今日此処に来た。谷口先生に護られていると自信を持って、皆さんもがんばって伝えてほしい。

★ ★

垂れ給うた。

宝鏡同床共殿の神勅「吾が児この宝鏡を視まさんこと、当に吾を視るが如くすべし。共に床を同じくし、殿を一つにし、以つて斎鏡と為すべし」。 「み鏡」は天照大御神の御魂として伊勢神宮に奉安され、「み剣」は正義・勇氣、「勾玉」は全ての国家が一つにながる愛を表わし、それぞれ二つずつ作られ、宮中と熱田神宮に奉安されている。

「ゆき殿」と「すき殿」において、天皇がみ位につかれる際、絹の布団（まじこおふすま）を二つ敷いて、日本の稲霊である御米からできた御神酒と御新穀を天皇さまが天照大神に捧げられ、二日間共



殿・共食をされ、そこで初めて天照大神の御命を戴かれる。敗戦時この行事がとぎれなかつた事は天皇国日本が天界から祝福されている証しである。

ブルーノ・タウトは伊勢神宮に来て膝まづき、「こんな霊的な素晴らしい建物日本他にない」と同行の女性達は「帰りたくない」と座り込んでしまった。日本には八万社の神社がある。まさに神々の国である。

「天皇陛下が一泊以上行幸される時は『天照大御神の皇孫としてのみ印』を伴われる」それを劍璽御動座という。昭和三十六年国会で決まり復活した。「元号法制化」も生長の家・大東塾が中心になり、殊に大東塾の影山正治先生は「日の本の元つ生命のふるさとへ はよはよ帰れ 戦後日本よ」とご自身の生命を玉串として捧げ割腹自決され、元号法制化が実現した。北島親房・楠木正成・正行・吉田松陰・牛島大将それぞれ愛国の至情溢れる歌を残された。吾等もそれらの優れた先輩を倣い、天皇国日本をお守りして行こう。

★ ★